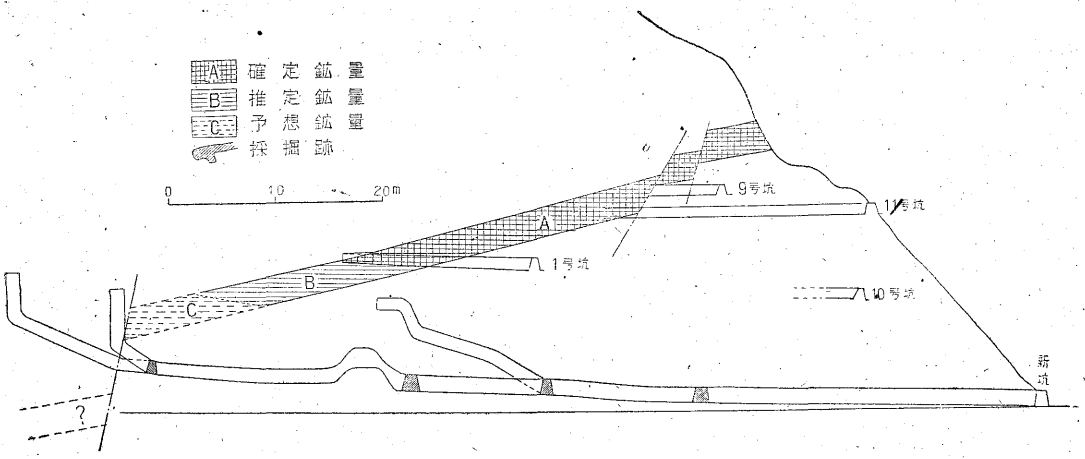


第 1 圖　断　面　圖

内外の緩斜を示し，なお探鉱の要があるが現在判明している部分は，走向延長 45 m 傾斜延長 55 m である。

蠟石は葉蠟石質蠟石に属し，優良鉱・上鉱・並鉱及び淡飴色鉱の4種に区別される。優良鉱は淡紅白色・淡青白色・緻密で，葉蠟石を主成分とし，ディァスポアを伴い，副成分に白鉄鉱・絹雲母を伴う。礬土に富み耐火度は SK 35 に達する。稀に眼玉石を挾有する。

上鉱は淡灰白色を呈し，多少脂肪光沢を有し，多量の鋼玉を斑点状に含有するもので，耐火度は SK 34 である。葉蠟石を主とし，少量のディァスポアを含有する。

並鉱は灰白色・淡青灰色・脂肪光沢を有し，岩質は堅硬で，第1坑では珪化作用の影響をうけて特に堅緻となる。耐火度 SK 32 のものである。

露天堀及び坑内に於て鉱石が殆んど観察されぬため，鉱床内部に於ける品位の分布状態を明らかにし難いが，地表に近い部分程良質鉱石(優良鉱及び上鉱)が多く，下部に至るに従い，減少する傾向がある。

埋藏は推定約 4,900 t，予想約 4,000 t である。

本鉱床はなお走向方向及び下部は探鉱の余地があり，従来探鉱失敗の原因は東西性の断層粘土を追跡したことに基因する。

553.32.065 : 550.8 (521.62) : 622.19

愛知縣田口鉱山マンガン鉱床調査報告

宮　本　弘　道*

Résumé

On Manganese Ore Deposits at Taguchi Mine, Aichi Prefecture.

by

Hiromichi Miyamoto

The manganese ore deposits at Taguchi Mine, occur in quartz schist and mica shist, being replaced by hydrothermal solution. The ores consist chiefly of tephroite, rhodonite, Mn-garnet and rhodochrosite with more silicate content. The estimated ore reserves are less than one thousand tons (Mn=36%)

* 鑛床部

地質月報 第1巻 第5號

要　旨

昭和25年3月9日より8日間愛知縣北設樂郡田口町田口鉱山のマンガン鉱床を調査した。本鉱山のマンガン鉱床は雲母片岩及び石英片岩を母岩とする熱水性の交代鉱床である。主な鉱床は源助・鳥帽子・裏山にあつて，第三紀の礫岩層によつて覆われている。その深さは 10m 以下の浅いものである。目下源助の鉱床の採掘が行われている。鉱石はバラ輝石・テフロ石・菱マンガン鉱等のマンガン鉱物よりなつて，珪酸分が多い。平均品位を Mn 36%と見込んで 600 t が推定されるが，それ以上の

鉱量を予想する事は困難である。鳥帽子の東端の鉱体及び裏山の西端の鉱体に関して合計 300 t を予想されるが，多少の期待がおける程度である。

1. 鑛　　區

登録鉱区番号　愛知縣試掘 1423, 1035, 1151

鉱　　種　マンガン

鉱業権者

東京都目黒区下目黒 3 の 526

日本満俺鉱業株式会社

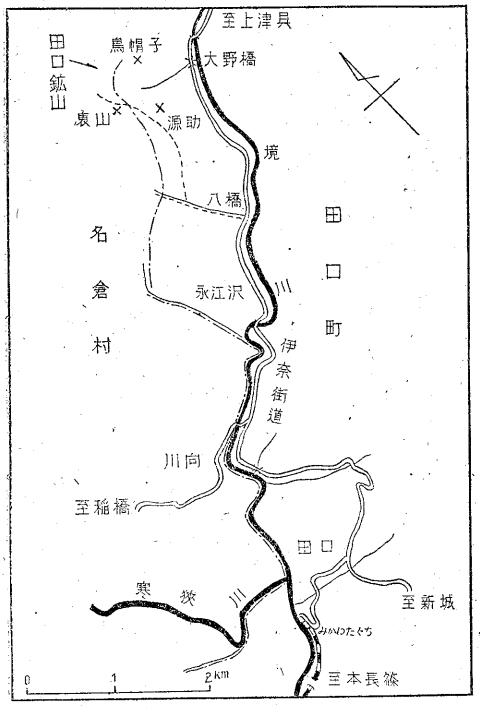
代表者　福　原　敏　雄

2. 位置及び交通

現場の位置

愛知縣北設樂郡田口町八橋字源助

(田口鉄道三河田口駅の北々東 5.5 km の位置にある)



第1圖　田口鑛山位置交通圖

現場に至る径路

東海道線豊橋駅 —飯田線→ 本長篠駅 —田口鉄道→ 三河田口駅

津具方面行バス —6 km→ 大野橋積込場 —徒歩 約 1 km→ 源助現場

現場よりの搬出径路

源助現場 —木馬 400m→ —索道 175m→ 大野橋積込場 —トラック 6 km→ 三河田口駅

3. 沿　　革

柴田兵治氏より昭和 23 年末譲受け，昭和 24 年 5 月に事業に着手して，裏山の鉱床の採掘を始め，更に源助の鉱床に移り現在に及んでいる。

4. 地　　形

本地域は段戸山地の一部であつて，寒狭川の支流境川の西側にあたる丘陵地を占めている。山頂部の起伏は概して少く，準平原の名残りをとどめていて，谷底と山頂との比高 200 m に過ぎない。溪流の方向は片麻岩類の方向及び傾斜の方向に支配されることが多い。

5. 地　　質

本地域の地質は領家片麻岩類・閃緑岩・これらを貫くペグマタイト及び石英脈，第三紀の礫岩層よりなる。領家片麻岩類は石英片岩及び雲母片岩にして，概して N 60°～70° E の方向に走り，北に 50°～60° 傾いて，その走向及び傾斜の方向又はそれに近い方向に断層が発達し，その中の割目は N 30°～40° W の方向に走り，南又は北に 80° 傾いている。第三紀の礫岩層は花崗岩・領家片麻岩類等の礫を含む礫岩よりなり，領家片麻岩類・閃緑岩・ペグマタイト・石英脈・マンガン鉱床等を覆うている。

6. 鑛　　床

本地域のマンガン鉱床は石英片岩及び雲母片岩を母岩とする熱水性の交代鉱床である。石英片岩は珪化作用を受けて，珪岩様の岩石となる事があるが，雲母片岩は粘土化作用を受けている。鉱床の方向は母岩の方向に概して一致しているが，北落ちである。鉱床の西端が北に急曲して鏑幅も深さも減じて消滅する傾向がある。礫岩層堆積以前に鉱床の上部が侵蝕し取去られて，底部の僅かな部分が残留したもののようで，その深さ鏑幅に比して浅く最大 10 m 程度である。域内には大小 20 近くの露頭が散在するが，源助・鳥帽子・裏山の三地域に分ける事が出来る。

〔源助の鉱床〕

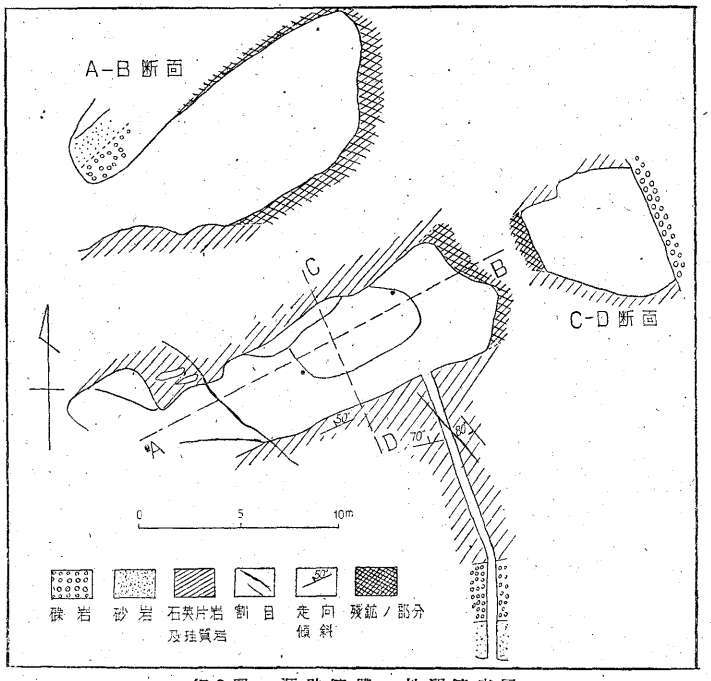
この地帯には 7 つの露頭があるが，稼行中の鉱床のみが鉱況優勢である。これを源助鉱体と呼ぶ事にする。採掘された規模は延長 20 m，鏑幅 4 m 以上，深さ 6 m 以上である。この鉱体は N 60° E の方向に延び，北に 50° 傾いている。西端は北に急曲して鏑幅 1 m 以下に減じて，深さも 1 m 以下となる。東引立は鉱化狀況が稍々衰えているが，東引立寄りの底部は最も鉱況優勢である。盾入坑内に N 40° W の方向に走る割目が見られる。

〔烏帽子の鉱床〕

烏帽子には 3 露頭があり，その東端の露頭が優勢な鉱

礫岩(第三紀層)
雲母片岩
石英片岩
古生層
閃綠岩
ペグマタイト
石英脈
鉱床
断層
坑口
東山
鳥帽子
大野沢
源助
東道
鉱山事務所
大野橋
地生橋
中野橋
至津具
至田口
0 100 200 300m

第2圖　田口鑛山附近地質鑛床圖



第3圖　源助鑛體の地質鑛床圖

況を示して，その鏈幅が1m，延長が4mで，N 50° E の方向に延びている。表土に埋没して規模が明らかでない。以下この鉱床を烏帽子鉱体と云う事にする。その他の露頭は珪質度が高かつたり。酸化やけの域を出なかつたりしている小規模のものである。

〔裏山の鉱床〕

この地域には7つの露頭が散在している。西端の露頭のみが未開発で，他の6露頭は採掘済である。裏山の谷の北側の2露頭が規模が大きくて，その採掘跡より推定すれば，延長26m，鏈幅2m及び延長48m，鏈幅3mであつて，何れも深さは5m以下である。概してその西端が北に急曲して消滅している。西端の鉱床（裏山鉱体と呼ぶことにする）はN 70° E の方向に延び，その露頭の規模は延長17m，鏈幅2.5m，傾斜延長3mである。

7. 鑛石及び品位

鉱石を構成する主なマンガン鉱物はバラ輝石・テフロ石で，菱マンガン鉱が相当少いようであり，その外に局部的にマンガン柘榴石が存在する。鉱床の上部の酸化鉱は軟マンガン鉱・硬マンガン鉱・水マンガン鉱等よりなる。脈石としては石英が主で，その外に方解石・黄鉄鉱・角閃石等が見られる。

鉱石は菱マンガン鉱割合に少いために珪酸分が比較的高く，テフロ石が存在するために Mn が稍々高くなり，Mn 40%近くになる事がある。

8. 現　況

調査当時の本鉱山の現況は下に示される。

(1) 稼行鉱床数 1，稼行坑道数 1，切羽数 1　手掘

(2) 選　鉱

採掘鉱石→破砕→手選→
- 酸化鉱
  - Mn 41～42%　SiO_2 17%
  - Mn 40%以下
- 珪酸鉱
  - A. Mn 37～39% SiO_2 27～28%
  - B. Mn 34～36% SiO_2 30%±
  - C. Mn 29～31% SiO_2 35%
- 廃　石

(3) 特別設備　簡易索道　延長 175 m

(4) 労務者

坑内夫	5
坑外夫	8
選鉱婦	6

(5) 月産　100 t

9. 結　論

源助鉱体の底部及び東延長部の鏈押探鉱は積極的に行わねばならぬが，何れも附近の地質より推定してあまり期待がもたれない。烏帽子鉱体については一應剝土による探査が考えられるが，著しい鉱量の増加は期待薄のようである。裏山鉱体を開発しても，相当多量の鉱量を望む事は無理でもあり，他方搬出の便が悪く開発の障害となつているから，鉱量相当増加せぬ限りは開発困難と考える。　（昭和25年3月調査）

553.32.065 : 550.8 (521.62) : 622.19

愛知縣共栄鉱山マンガン鉱床調査報告

宮　本　弘　道*

Résumé

On Manganese Ore Deposits at Kyo-ei Mine, Aichi Prefecture.

by

Hiromichi Miyamoto

There are manganese ore deposits which have been replaced through hydrothermal activity in quartz schists at the Kyō-ei mine. The ores consist chiefly of manganese silicates (tephroite and rhodonite etc.) and rhodochrosite. The deposits can not give promise of both abundant reserves and high grade ores.

* 鑛床部

地質月報 第1巻 第5號

要　旨

昭和25年3月17日1日間愛知縣北設樂郡名倉村共栄鉱山のマンガン鉱床を調査した。本鉱山のマンガン鉱床は石英片岩を母岩とする熱水性の交代鉱床である。鉱石を構成するマンガン鉱物としてはバラ輝石が多く，菱マンガン鉱，マンガン柘榴石等が随伴している。最も鉱化状況の優勢なのは中の鉱体で見込平均品位 Mn 30%のもの 160 t が推定されて，深さ5m以上を期待する事は無理のようである。其の他の露頭については更に期待薄である。

1. 鑛　區

登録鉱区番号　愛知縣試掘 1871

鉱　　種　マンガン

鉱業権者　愛知縣幡豆郡西尾町高畠　柴田兵治